

総合型地域スポーツクラブ育成のための住民調査(2)

— 愛媛県松山市しおみクラブの場合 —

堺 賢治・藤原 誠 (保健体育研究室)

伊賀上 哲 旭 (教育学研究科保健体育専修)

山本 孔 一 (愛媛女子短期大学)

(平成18年6月2日受理)

A survey for cultivating comprehensive community sports clubs (2)

—The case of Shiomi club, Matsuyama-city, Ehime—

Kenji SAKAI, Makoto FIJIWARA,

Tetsuaki IGAUE, Koichi YAMAMOTO

I. 序論

今、日本で問題になっているのは格差社会である¹⁾。小泉改革は日本の活性化をもたらしたといわれているが、その反面で、勝ち組と負け組に分かれるアメリカ型の社会になりつつあるともいわれている。その結果、人々は医療費の値上げ、年金の減額などを控えて、将来が不安であり、支える地域がまだ確立していないため金を使わない。そして、なかなか経済不況から脱出出来ない状況にある。さらに、少子高齢化が進み、2025年に高齢者の占める割合は、愛媛県では1.5倍になるが、都市部の埼玉県では3.6倍になり²⁾、将来的には都市部が危ないと思われる。特に、都市部では、地域共同体の崩壊後、まだ新しいコミュニティを作りきっていないと思われる。

総合型地域スポーツクラブはこれらの問題を解決する機能があるといわれている³⁾。しかしながら、全国各地の総合型地域スポーツクラブを設立している地域は、まだ地域共同体が残っている農村地域に多く⁴⁾、地域共同体の崩壊した都市部に少ないといえる。つまり、本当に総合型地域スポーツクラブを作らねばいけない地域に出来てなく、近所づきあいがある地域の人間関係がある地域に出来ている場合が多いといえる。

都市部でなぜ総合型地域スポーツクラブづくりが難しいかという、行政がすべての地域に対応できないから

ということが考えられる。松山市を例にとると、中学校区は30あり、すべてに総合型地域スポーツクラブを作るとしたら、小規模町村にみられる行政主導型では難しく、住民主導型が必要である。全国各地の都市部で成功している総合型地域スポーツクラブを視察すると、ほとんどのクラブが住民主導型である⁵⁾。

そこで、本研究では、2004年4月に設立された「しおみクラブ」(愛媛県松山市潮見校区)^(注1)に焦点をあわせ、第一に、潮見校区住民のスポーツ活動の実態やニーズを把握し、第二に、しおみクラブ育成のための資料を与えること、第三に、しおみクラブがコミュニティ形成に寄与しているかを明確にすることを目的にした。

(注1) 愛媛県松山市潮見校区は、松山市の中心街から北へ4km、今治市に通ずる国道196号線に位置し、近年、県営・市営のアパートが建設され、民間の住宅開発のアパートの建築も進み、各種スーパーの進出とあわせ、急激な都市化が進行中の地域である。

II. 調査方法

- (1) 調査対象：愛媛県松山市潮見校区吉藤町に在住する20歳以上の住民2100名
- (2) 調査時期：2005年12月
- (3) 調査方法：質問紙による配票調査

(4) 回収率：有効回収数 426部 有効回収数 20,3%

(5) 分析の視点

①性別：男性 (N=190 44,6%)

女性 (N=236 55,4%)

②クラブ加入の有無

総合型地域スポーツクラブへの加入の有無によって、加入している人をA群、加入希望者をB群、加入したくない人をC群とした。A群の人はわずか9.6%であり、これからのクラブであることがわかる。(表1)

表1 クラブ加入の有無 (%)

項目	N	%	
加入している	41	9.6	A群
加入したい	179	42.0	B群
加入したくない	206	48.4	C群

Ⅲ. 結果及び考察

1. 年齢

表2は年齢について示したものである。全体では、「20歳代」が10.3%、「30歳代」が20.0%、「40歳代」が16.7%、「50歳代」が21.6%、「60歳代」が20.9%、「70歳代以上」が10.9%であり、「20歳代」と「70歳代」が少ない。また、無効になった調査票は「70歳代以上」が一番多い。性別では差はみられない。

加入の有無別に比較すると、A群では、40歳代、50歳代が多く、20歳代、30歳代と70歳代が少ない。若者と高齢者のクラブへの加入が課題であることがわかる。

表2 年齢 (%)

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
20歳代以下	10.0	10.6	4.9	10.6	11.2	10.3
30歳代	22.1	18.2	9.8	21.2	20.9	20.0
40歳代	15.3	17.8	26.8	18.4	13.1	16.7
50歳代	16.3	25.9	36.6	20.7	19.4	21.6
60歳代	22.1	19.9	19.5	19.6	22.3	20.9
70歳代以上	14.2	7.6	2.4	9.5	13.1	10.6

(1つだけ○印)

2. スポーツ活動

(1) 種目

表3は、過去1年間によく行ったスポーツ種目について上位9位までを示したものである。全体では、「散歩・ウ

ォーキング」が24.6%と最も多く、次いで、「軽い体操」の10.8%であり、手軽に個人で行える種目が多くなっている、性別で比較すると、女性は、「散歩・ウォーキング」や「軽い体操」「レクバレー」が多いのに対し、男性は「ゴルフ」が多い。

加入の有無別に比較すると、A群では「レクバレー」が39.0%と最も多く、次いで、「グランドゴルフ」の19.5%、「バレーボール」の14.0%であり、しおみクラブで活動している種目が多い。一方、B群やC群は「散歩・ウォーキング」「軽い体操」などの気軽に行えるものが多くなっている。

表3 種目 (%)

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
散歩・ウォーキング	19.5	28.8	12.2	26.3	25.7	24.6
軽い体操	7.9	13.1	0.0	12.8	11.2	10.8
レクバレー	2.6	11.9	39.0	5.6	3.4	7.7
ゴルフ	13.7	1.3	2.4	6.7	7.8	6.8
水泳	4.7	7.6	2.4	7.3	6.3	6.3
ボーリング	7.9	4.2	0.0	8.4	4.9	5.9
卓球	4.2	4.7	4.9	5.6	3.4	4.5
テニス	4.2	4.2	0.0	7.3	2.4	4.2
バドミントン	2.6	5.1	7.3	5.0	2.4	4.0
行っていない	23.7	30.9	0.0	22.3	37.9	27.7

(2つまで○印)

(2) 頻度

表4は、過去1年間のスポーツ実施頻度をあらわしたものである。全体では、「週に3回以上」が16.0%、「週に1~2回」が21.4%であり、週に1回以上スポーツを行っている人は、37.4%となっている。これを全国の調査と比較すると、週1回以上スポーツを行っている人は37.2%であり、ほぼ同じ結果である。また、愛媛県の調査では、週に1回以上スポーツを行っている人は、27.6%であり⁶⁾、愛媛県内ではスポーツを行っている人の多い地域である。性別で比較すると、週に1回以上スポーツを行っている人は、男性35.7%、女性38.7%であり、女性の方が多い。しかし、行っていない人も女性の方が33.7%と男性の25.8%を上回り、女性の方に二極化の傾向がみられる。

加入の有無別に比較すると、週に1回以上スポーツを行っている人は、A群が70.7%、B群が39.7%、C群が28.6%であり、しおみクラブの活動が実施頻度に寄与していることがわかる。

表4 頻度

(%)

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
週に3回以上	18.9	13.6	26.8	16.2	14.3	16.0
週に1～2回	16.8	25.1	43.9	23.5	15.8	21.4
月に1～2回	18.9	14.0	19.5	20.1	12.8	16.2
年に数回	19.5	13.6	9.8	15.1	14.4	16.2
行っていない	25.9	33.7	0.0	25.1	42.7	30.2

(1つだけ○印)

(3) 施設

表5は、過去1年間のスポーツ実施場所をあらわしたものである。全体では、「公共のスポーツ施設」が23.5%、次いで、「商業スポーツ施設」の18.3%、「道路」の16.2%、「学校の体育施設」の14.3%の順である。「学校の体育施設」は「公共スポーツ施設」と比べて少なく、容易に使える施設でないと考えられる。性別で比較すると、男性は「商業スポーツ施設」が最も多くなっており、これは男性がよく実施している「ゴルフ」と関係していると考えられる。女性は、「公共のスポーツ施設」が多くなっており、これは平日の朝や昼は「学校の体育施設」が出来ないからだと考えられる。また、「散歩・ウォーキング」で使用する「道路」も多い。

加入の有無別で比較すると、「学校の体育施設」はA群が70.7%と圧倒的に多く、しおみクラブの活動の拠点になっていることがわかる。また、「商業スポーツ施設」と「道路」はB群とC群が多い。この理由として、「学校の体育施設」は昼間に使用できず、さらに個人には開放されていないため、クラブに加入していないと利用できないことがあげられる。

表5 施設

(%)

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
公共スポーツ施設	18.4	27.5	36.6	39.6	25.6	23.5
商業スポーツ施設	23.2	14.4	4.9	29.1	29.6	18.3
道路	13.2	18.6	12.2	21.6	28.0	16.2
学校の体育施設	15.3	13.6	70.7	17.2	7.2	14.3
公園・空き地	7.9	4.7	14.6	10.4	4.8	6.1
野外(海・山・川)	4.7	7.2	0.0	9.7	10.4	6.1
自宅	3.7	4.7	4.9	3.7	8.8	4.2

(2つまで○印)

(4) クラブ加入

表6は、過去1年間のスポーツクラブ加入の有無と形態についてあらわしたものである。全体では、スポーツ

クラブに加入している人は34.7%であり、愛媛県の調査と比較すると、愛媛県では29.1%であり、潮見校区のスポーツクラブの加入率は高いといえる。形態としては、「仲間で作ったクラブ」に加入している人が11.7%と最も多く、次いで、「民間のスポーツクラブ」の10.8%である。性別で比較すると、スポーツクラブに加入している人は、男性が32.1%、女性が36.9%であり、女性の方がやや加入率が高い。

加入の有無別に比較すると、クラブに加入している人は、A群が100%、B群が36.9%、C群が21.4%となっており、しおみクラブの加入に積極的な人に、スポーツクラブへの加入率が高い。形態を比べると、A群では「体育協会のクラブ」や「仲間で作ったクラブ」に重ねて加入している人も多くみられた。B群では、「民間のスポーツクラブ」が多くみられた。総合型地域スポーツクラブでも、「民間のスポーツクラブ」のような教室を行うことは可能であり、多くの人が自分の地域でスポーツを行える環境を作り、スポーツを通じて地域との関係を深められるクラブが求められる。

表6 クラブ加入

(%)

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
体育協会のクラブ	5.8	1.7	26.8	1.7	0.5	3.5
PTAのクラブ	0.5	0.2	0.0	0.6	0.5	0.5
仲間で作ったクラブ	11.1	12.3	22.0	15.1	6.8	11.7
職場や仕事の関係で作ったクラブ	5.8	2.1	2.4	5.6	2.4	3.8
民間のスポーツクラブ	6.8	14.0	2.4	14.0	9.7	10.8
しおみクラブ	7.4	8.1	100.0	0.0	0.0	7.7
その他	2.1	3.8	0.0	5.6	1.5	3.1
加入していない	67.9	63.1	0.0	63.1	78.6	65.3

(あてはまるものすべてに○印)

(5) 今後のスポーツ活動

表7は、今後行ってみたいスポーツ種目上位11位までについてあらわしたものである。全体では、「散歩・ウォーキング」が16.9%と最も多く、次いで、「軽い体操」の16.7%、「水泳」の13.8%、「バドミントン」の11.7%、「テニス」の8.9%となっている。「散歩・ウォーキング」や「軽い体操」など、現在行っている種目を今後とも引き続き行いたいと思っている人が多いと考えられる。しかし、「ゴルフ」や「レクバレー」は上位に入っておらず、「水泳」や「バドミントン」が上位に入っており、チームで行う種目よりも、個人的に、気軽に行える種目のニーズが高くなっている。性別で比較すると、

男女ともに、「散歩・ウォーキング」「水泳」が多くなっている。また、男性は、多くの種目に分散し、ニーズの多様化していることがうかがわれる。一方、女性は、「軽い体操」「太極拳」が多くなるなど個人で行えるスポーツに対してニーズが高まっているといえる。

加入の有無別に比較すると、A群は、「レクバレー」が14.6%最も多く、次いで、「バレーボール」「バドミントン」「水泳」「エアロビクス」「ゴルフ」が12.2%と多く、現在行っている種目を今後とも行いたいと思っている。B群では全体でも多い「散歩・ウォーキング」「水泳」「軽い体操」に加えて、「バドミントン」「テニス」にもニーズがある。加入を希望している人を加入へと導くためには、ニーズの高い種目を取り入れることが大切だといえる。

表7 今後のスポーツ活動 (%)

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
散歩・ウォーキング	16.8	16.9	2.4	17.9	18.9	16.9
軽い体操	7.9	23.3	2.4	15.1	20.4	16.4
水泳	13.7	14.0	12.2	17.3	11.2	13.8
バドミントン	10.5	12.7	12.2	15.1	8.7	11.7
太極拳	6.3	12.7	9.8	12.3	7.8	9.9
テニス	6.8	10.6	9.8	12.3	5.8	8.9
ハイキング	8.9	6.4	7.3	7.8	7.3	7.5
スキー・スノーボード	6.8	6.8	4.9	6.1	7.8	6.8
卓球	7.4	5.5	4.9	8.4	4.9	6.3
ボーリング	8.4	3.4	9.8	5.0	5.3	5.6
ゴルフ	8.4	3.0	0.0	6.7	5.3	5.4
行いたくない	7.4	7.2	0.0	1.7	13.6	7.3

(2つまで○印)

(6) スポーツ活動の満足度

表8は、現在のスポーツ活動の満足度をあらわしたものである。全体では、「満足している」「まあまあ満足している」と答えた人は、41.1%であり、満足していない人が多い。性別で比較しても差はみられない。

加入の有無別に比較すると、満足している人はA群が80.5%、B群の40.2%、C群の33.9%であり、A群に満足している人が多い。

表8 スポーツ活動の満足度 (%)

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
大変満足している	4.2	3.8	12.2	2.2	3.9	4.0
まあまあ満足している	36.3	37.7	68.3	38.0	30.1	37.1
あまり満足していない	33.7	26.3	17.1	32.4	29.6	29.6
まったく満足していない	18.4	19.5	2.4	17.9	23.3	19.0
無回答	7.4	12.7	0.0	9.5	13.1	10.3

(1つだけ○印)

3. しおみクラブ

(1) しおみクラブの認知度

表9は、しおみクラブの認知度についてあらわしたものである。全体では、「よく知っていた」「だいたい知っていた」「聞いたことはあった」と答えた人は63.2%となっており、約6割の人が、しおみクラブについて何らかの形で知っていたことがわかる。性別で比較すると、男性よりも女性の方がよく知っており、女性の方が地域との結びつきがあると考えられる。

加入の有無別に比較すると、「よく知っている」「だいたい知っている」と答えた人は、A群の95.1%、B群の38.0%、C群の25.2%となっており、加入を希望するB群の人への啓蒙活動が必要になることがわかる。

表9 しおみクラブの認知度 (%)

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
よく知っていた	11.1	7.6	46.3	7.3	3.4	9.2
だいたい知っていた	24.2	31.4	48.8	30.7	21.8	28.2
聞いたことはあった	18.9	31.4	4.9	25.1	30.6	25.8
知らなかった	45.8	29.6	0.0	36.9	44.2	36.8

(1つだけ○印)

(2) 勧誘の有無

表10は、しおみクラブへの勧誘の有無についてあらわしたものである。全体では、「ある」と答えた人は17.1%であり、あまりクラブへの勧誘を行っていないことがわかる。性別で比較しても差はみられない。

加入の有無別に比較すると「ある」と答えた人は、A群の85.4%、B群の18.2%、C群の6.8%である。B群とC群の勧誘が不足していることがわかり、もっと積極的に勧誘を行うことが必要である。

表10 勧誘の有無 (%)

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
ある	15.8	18.2	85.3	13.4	6.8	17.1
ない	84.2	81.0	9.8	86.6	93.2	82.4
無回答	0.0	0.8	4.9	0.0	0.0	0.5

(1つだけ○印)

(3) 加入後の変化

表11は、しおみクラブ加入者に、クラブ加入後の変化を聞いたものである。全体では、「新しい仲間が出来た」

が42.2%と最も多く、次いで、「スポーツの楽しさを知った」の30.8%、「ストレス解消になった」の25.6%、「他の地域行事に参加するようになった」の17.9%、「地域への愛着心が深まった」の15.4%と続いている。性別で比較すると、男性は「新しい仲間ができた」と56.3%の人が答えている。また、「他の地域行事に参加するようになった」や「地域の役員活動に積極的になった」が多くなっている。クラブ加入がきっかけとなり、地域とのつながりが出来る場合が多い。

表11 加入後の変化 (%)

項目	男	女	全体
新しい仲間ができた	56.3	39.1	46.2
スポーツの楽しさを知った	18.8	39.1	30.8
ストレス解消になった	37.5	17.4	25.6
他の地域行事に参加するようになった	31.3	8.7	17.9
地域への愛着心が深まった	25.0	8.7	15.4
健康になった	18.8	8.7	12.8
地域の役員活動に積極的になった	25.0	0.0	10.3
生活にメリハリができた	6.3	8.7	7.7
しおみクラブのイメージが変わった	12.5	0.0	5.1
その他	0.0	17.4	10.3
変化はない	12.5	26.1	20.5

(あてはまるものすべてに○印)

(4) クラブ加入条件

表12は、現在「しおみクラブ」に加入していない人に、クラブ加入条件について聞いたものである。全体では、「自分のレベルにあった運動ができる」の45.2%が最も多く、次いで、「安い値段でスポーツができる」の32.3%、「一緒に活動する仲間がいる」の31.0%、「健康をチェックしてもらえる」の23.0%である。このことから、多様なプログラムが行われ、健康をチェックしてもらえるようなシステムを作ることが必要である。また、仲間づくりにおいては、クラブハウスに代表されるような、スポーツを行った後にコミュニケーションの出来るような空間が必要であると思われる。性別で比較すると、男性は、「いろいろなスポーツができる」「いろいろな世代と交流できる」が多くなっている。

加入の希望別で比較すると、クラブ加入を希望しているB群では、「自分のレベルにあった運動ができる」「一緒に活動する仲間がいる」「安い値段でスポーツができる」が多くなっており、B群を加入させるためには、多様なプログラムと仲間づくりが必要であることがわかる。

表12 クラブ加入条件 (%)

項目	男	女	B群	C群	全体
自分のレベルにあった運動ができる	46.6	44.1	52.0	38.8	45.2
安い値段でスポーツができる	29.9	34.3	36.9	27.7	32.3
一緒に活動する仲間がいる	29.9	31.9	40.2	22.8	31.0
健康をチェックしてもらえる	23.6	22.5	26.8	19.9	23.0
スポーツ以外の活動(文化活動)もある	13.2	19.7	18.4	15.5	16.8
専門的な知識をもった指導者がいる	14.9	14.6	17.9	12.1	14.7
子どもたちと一緒に参加できる	14.4	15.0	19.0	10.7	14.7
いろいろなスポーツができる	21.3	8.5	17.9	11.2	14.2
いろいろな世代と交流できる	16.1	7.5	15.1	8.3	11.4
多様なプログラムを提供してくれる	9.8	11.3	12.8	8.7	10.6
その他	6.9	13.1	7.8	12.6	10.3

(あてはまるものすべてに○印)

(5) 参加したいスポーツ教室

表13は、参加したいスポーツ教室についてあらわしたものである。全体では、上位10教室をあげると、「ヨガ」の18.1%が最も多く、次いで、「ストレッチ」の17.8%、「ウォーキング」の17.3%、「バドミントン」の13.1%、「太極拳」の12.9%、「筋力トレーニング」の12.8%、「水泳」の12.2%、「テニス」「体操」の11.5%、「卓球」の9.9%の順になっている。このことから、商業スポーツクラブで行われているフィットネス系のプログラム(ヨガ、ストレッチ、太極拳、筋力トレーニング)、個人で手軽に行われる健康づくり的な運動(ウォーキング、体操)、個人もしくは少人数で行われる球技(バドミントン、テニス、卓球)に高いニーズがあることがわかる。また、集団で行う球技はニーズが低い。性別で比較すると、女性は「ヨガ」の希望が多く、「体操」「ウォーキング」「ウォーキング」「ストレッチ」「太極拳」でも男性より高い値を示している。このことから、男性よりも健康志向が強く、商業スポーツクラブで行うようなプログラムを行いたいと考えているようである。

加入の有無別に比較すると、A群では、「バドミントン」「水泳」「ウォーキング」「ストレッチ」「太極拳」が多くなっており、現在実施している種目に加え、健康づくりの教室に参加したいという傾向にある。一方、B群では、商業スポーツクラブで行われているフィットネス系のプログラム、個人で手軽に行われる健康づくり的な運動、個人もしくは少人数で行われる球技のニーズが高く、全体と同じ傾向がみられる。B群を加入させるためには、ニーズの高い種目の教室を開催することが求められる。

表13 参加したい教室 (%)

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
ヨガ	7.4	26.7	17.1	20.1	16.5	18.1
ストレッチ	13.2	21.6	14.6	17.3	18.9	17.8
ウォーキング	13.7	20.3	4.9	18.4	18.9	17.4
バドミントン	11.6	14.4	22.0	17.3	7.8	13.1
太極拳	10.0	15.3	14.6	14.5	11.2	12.9
筋力トレーニング	15.8	9.7	7.3	9.5	9.2	12.4
水泳	13.7	11.0	17.1	11.2	12.1	12.2
テニス	11.6	11.4	4.9	16.2	8.7	11.5
体操	5.3	16.5	2.4	14.0	11.2	11.5
卓球	11.6	8.5	7.3	14.5	6.3	9.9
ダンス	2.6	11.4	7.5	4.9	10.6	5.3
ソフトボール	12.6	2.1	6.8	12.2	10.1	2.9
エアロビクス	1.6	9.3	5.9	9.8	6.7	4.4
レクリエーションバレーボール	4.7	6.4	5.6	9.8	7.3	3.4
バレーボール	4.2	5.9	5.2	7.3	7.3	2.9
グランドゴルフ	7.9	2.5	4.9	9.8	6.1	2.9

(3つまで○印)

(6) 将来のスポーツクラブの会費

しおみクラブの現在の会費は2000円であるが、将来の会費についてたずねたものが表14である。全体では、「2,000円以上～3,000円未満」が37.5%と最も多く、次いで、「2,000円未満」の24.9%、「3,000円以上～5,000円未満」の22.5%と続いており、少しばかりの会費の値上げはかまわないと思っている人が多い。性別で比較すると、3,000円以上と答えた人は、男性42.7%、女性25.8%であり、男性の方に多く払ってもよいと思っている人が多い。

加入の有無別に比較すると、3,000円以上と回答した人は、A群31.7%、B群39.1%、C群28.7%であり、加入を希望しているB群の人が多く払ってもいいという傾向がみられる。

表14 将来のクラブ会費 (%)

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
10,000円以上	2.1	0.4	0.0	2.2	0.5	1.2
5,000円以上～10,000円未満	13.2	6.8	14.6	11.2	7.3	9.6
3,000円以上～5,000円未満	27.4	18.6	17.1	25.7	20.9	22.5
2,000円以上～3,000円未満	30.5	43.1	41.5	39.7	34.9	37.5
2,000円未満	22.6	26.7	24.4	19.0	30.1	24.9
無回答	4.2	4.2	2.4	2.2	6.3	4.2

(1つだけ○印)

(7) ボランティア・指導者としての参加希望

表15は、しおみクラブへのボランティアあるいは指導者としての参加希望をあらわしたものである。全体では、「参加したい」が4.2%、「誘われれば参加したい」が18.8%であり、肯定的に答えた人は23.0%である。あまり積極的とはいえませんが、この2割の人を取り込んで行くことが求められる。性別で比較すると、「参加したい」「誘われれば参加したい」と答えた人は、男性の30.0%、

女性の17.4%であり、男性の方が積極的であるといえる。

加入の有無別に比較すると、「参加したい」「誘われれば参加したい」と回答した人は、A群51.1%、B群36.3%、C群5.8%であり、加入に対して積極的な人ほど参加しようとする傾向があるといえる。

表15 ボランティア・指導者としての参加の有無 (%)

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
参加したい	5.8	3.0	17.1	5.6	0.5	4.2
誘われれば参加したい	24.2	14.4	34.1	30.7	5.3	18.8
あまり参加したくない	33.7	32.6	26.8	32.4	35.0	33.1
参加したくない	32.1	41.5	12.2	24.0	53.9	37.3
無回答	4.2	8.5	9.8	7.3	5.3	6.6

(1つだけ○印)

(8) クラブへの期待

表16は、しおみクラブにどのようなことを期待しているかをあらわしたものである。全体では、「生きがいくくり」が52.6%と最も多く、次いで、「青少年の健全育成」の39.4%、「住民の居場所づくり」の30.0%、「集団遊びの復活」の26.3%、「誇れる郷土愛」の22.8%となっている。性別で比較すると、あまり差はみられない。

加入の有無別に比較すると、すべての項目において、A群とB群の割合が多くなっており、C群は少ない。加入しているA群、加入を希望しているB群は、「しおみクラブ」に対する期待の大きさがうかがわれる。

表16 クラブ活動への期待 (%)

項目	男	女	A群	B群	C群	全体
生きがいくくり	51.6	53.4	52.6	56.1	58.1	47.1
青少年の健全育成	44.7	35.2	39.4	43.9	43.6	35.0
住民の居場所づくり	30.0	30.1	30.0	43.9	33.5	24.3
集団遊びの復活	26.8	25.8	26.3	24.4	33.0	20.9
誇れる地域愛	24.7	21.2	22.8	17.1	29.1	18.4
医療費の削減	15.8	18.2	17.1	9.8	19.0	17.0
経済への波及効果	4.2	4.2	4.2	4.9	3.4	4.9
部活動の強化(一貫指導)	7.9	3.4	5.4	17.1	6.7	1.9
その他	1.1	3.4	2.3	2.4	2.2	2.4

(あてはまるものすべてに○印)

IV. コミュニティ意識

鈴木広⁷⁾はコミュニティ意識をコミュニティ・モラルとコミュニティ・ノルムに分けているが、本稿ではコミュニティ・モラルからみていく。

コミュニティ・モラルは人々のコミュニティに関する

関与の程度を知るための概念装置である。したがって、コミュニティ・モラルが高いほど、コミュニティ形成にとって望ましいといえる。また、コミュニティ・モラルは感情、統合認知、参加意欲の三要素からなっている。

感情は、愛着感、同一感、安定感、満足度などといった感情の水準を問うものである。

統合認知は、コミュニティというまとまりについて評価するものである。

参加意欲は、参加意志、役割意識、使命感、達成欲求など、コミュニティに対する関与の強さを表すものである。

コミュニティ・モラルに関する質問文については次のような内容である。

〈感情〉

1. 安堵感…外出してこの町に帰ってきた時に、「自分の町に帰ってきた」と感じてホッとしていますか。
2. 同一視…人からこの地域の悪口を言われたら、何か自分の悪口を言われたような気になりますか。
3. 仲間意識…この町に住んでいる人たちはみんな仲間だという気がしますか。
4. 好き嫌い…この町（地域）が好きですか。

〈統合認知〉

1. まとまり…この町の人たちはまとまりはよい方ですか。
2. リーダー…この地区のリーダーたち（町内会とか婦人会、PTAなどの役員など）はがいて地域のためによくやっているといますか。
3. 相互扶助…この地区に住んでいるみんなは、お互いに何かと世話しあっていますか。
4. 団結心…この町の人たちはお互いに協力する気持（団結心）が強い方だと思えますか。

〈参加意欲〉

1. 役割意識…この町のためになることをして何か役に立ちたいと思えますか。
2. 地方政治…この町や校区を代表する市議員を出すことは大切だと思えますか。
3. 地域行事への参加…町内や校区で一緒にする行事（運動会、寄付、清掃、署名活動など）にあなたは参加する方ですか。
4. 行事関心…町内、校区内でするいろいろなこと（役

員改選、年中行事、建設、道路事業など）にあなたは参加する方ですか。

そして、これらの質問に対してはすべて五段階にランクづけされた回答、例えば、「この町（地域）が好きですか」に対しては、①非常に好き、②やや好き、③どちらでもない、④やや嫌い、⑤非常に嫌い、などを用意した。

表17～表28は、感情（安堵感、同一視、仲間意識、好き嫌い）、統合認知（まとまり、リーダー、相互扶助、団結心）、参加意欲（役割意識、地域政治、地域行事への参加、行事関心）をあらわしたものである。

コミュニティ意識の形成について有意な差がみられたのは、感情の仲間意識、好き嫌い、統合認知の団結心、参加意欲の役割意識、地域政治、地域行事への参加、行事関心である。

また、有意な差のみられなかった感情の安堵感、同一視、統合認知のまとまり、リーダー、相互扶助において、A群の人の方が高い値を示している。

表17 安堵感 (%)

項目	A群	B群	C群
そのとおりだと思う	19.5	17.3	14.1
まあそのとおりだと思う	58.5	41.4	49.4
どちらともいえない	22.0	28.5	21.4
あまりそうは思わない	0.0	10.6	10.7
ほとんどそうは思わない	0.0	2.2	4.4

n. s. (χ^2 検定、以下同じ)

表18 同一視 (%)

項目	A群	B群	C群
かなりそう感じる	19.5	10.6	8.3
まあそう感じる	58.5	53.7	46.1
どちらともいえない	9.8	22.9	28.6
あまりそうは感じない	9.8	11.7	13.6
ほとんどそうは感じない	2.4	1.1	3.4

n. s.

表19 仲間意識 (%)

項目	A群	B群	C群
そう思う	12.2	3.4	2.9
まあそう思う	31.7	34.1	26.7
どちらともいえない	36.6	36.2	46.6
あまりそうは思わない	19.5	23.5	18.9
ほとんどそうは思わない	0.0	2.8	4.9

p<0.05

表23 相互扶助 (%)

項目	A群	B群	C群
全くそのとおりだと思う	0.0	3.4	2.9
まあそのとおりだと思う	58.5	45.3	36.9
どちらともいえない	36.6	39.7	47.1
あまりそうでないと思う	4.9	9.5	10.2
ほとんどそうでないと思う	0.0	1.7	2.9

n. s.

表20 好き嫌い (%)

項目	A群	B群	C群
非常に好き	36.6	19.6	12.1
やや好き	58.5	54.2	55.8
どちらともいえない	4.9	24.0	31.1
やや嫌い	0.0	1.7	1.0
非常に嫌い	0.0	0.6	0.0

p<0.01

表24 団結心 (%)

項目	A群	B群	C群
非常に強い方だと思う	4.9	2.8	1.0
やや強い方だと思う	39.0	34.6	22.3
どちらともいえない	46.3	50.8	67.0
やや弱い方だと思う	9.8	10.1	7.8
非常に弱い方だと思う	0.0	1.7	1.9

p<0.05

表21 まとまり (%)

項目	A群	B群	C群
非常によい	4.9	2.2	2.4
まあよい	43.9	36.9	31.1
どちらともいえない	36.6	49.7	59.3
やや悪い	14.6	9.5	5.3
非常に悪い	0.0	1.7	1.9

n. s.

表25 役割意識 (%)

項目	A群	B群	C群
そう思う	17.1	15.6	5.3
まあそう思う	58.5	53.1	38.8
どちらともいえない	19.5	26.8	41.6
あまりそうは思わない	4.9	4.5	11.2
ほとんどそうは思わない	0.0	0.0	2.9

p<0.001

表22 リーダー (%)

項目	A群	B群	C群
非常によくやっている	7.3	9.5	9.7
まあよくやっている	53.7	47.5	46.5
どちらともいえない	34.1	38.5	39.3
あまりやっていない	4.9	2.8	2.4
まったくやっていない	0.0	1.7	1.9

n. s.

表26 地域政治 (%)

項目	A群	B群	C群
非常に大切だと思う	29.2	17.3	8.7
やや大切だと思う	26.8	31.3	24.8
どちらともいえない	22.0	34.1	42.6
あまり大切だとは思わない	12.2	11.2	18.4
全く大切だとは思わない	9.8	6.1	5.3

p<0.01

表27 地域行事への参加 (%)

項目	A群	B群	C群
よく参加する	31.7	10.1	7.3
ある程度参加する	43.9	45.8	38.9
どちらともいえない	17.1	14.5	15.5
あまり参加しない	7.3	15.1	18.9
ほとんど参加しない	0.0	14.5	19.4

p<0.001

表28 行事関心 (%)

項目	A群	B群	C群
非常に関心がある	7.3	5.0	1.9
やや関心がある	48.8	39.2	29.1
どちらともいえない	29.3	27.9	33.0
あまり関心がない	12.2	21.8	28.2
ほとんど関心がない	2.4	6.1	7.8

p<0.05

表29は感情、統合認知、参加意欲のそれぞれ4つの調査内容を点数化（+2、+1、0、-1、-2）し、まとめてその平均を出したものである。+2、+1に注目すると、感情、統合認知、参加意欲のどれにおいてもA群の人の方が高い値を示している。

全体をまとめると、A群が最も高く、次いでB群、C群となっている。つまり、「しおみクラブ」に加入して人の多くは、クラブでの活動を通じて地域との関係を密にし、そのことがコミュニティ意識の形成に寄与したものと考えられる。B群は、直接的に地域との関係はあまりないが、表16のクラブに対する期待から、地域に対する思いが強いことがわかり、こうしたことがコミュニティ意識の形成につながっていると考えられる。B群の人たちがクラブに加入し、地域との関係を深め、思いを実現する立場になれば、さらにコミュニティ意識が高まるものと推察される。C群の人は、地域とのつながりがあまりなく、地域行事の参加に対しても消極的であり、コミュニティ意識が低いことがわかる。今後ともC群の人々に対しては、何らかの働きかけが必要である。

表29 タイプ別からみたコミュニティ意識

モラール 加入希望	感情					統合認知					参加意欲				
	+2	+1	0	-1	-2	+2	+1	0	-1	-2	+2	+1	0	-1	-2
A群	22.0	51.8	18.3	7.3	0.6	4.3	48.8	38.4	8.5	0.0	21.3	44.6	22.0	9.1	3.0
B群	12.7	45.8	27.9	11.9	1.7	4.5	41.1	44.7	8.0	1.7	12.0	42.4	25.8	13.1	6.7
C群	9.3	44.6	31.9	11.0	3.2	4.0	34.2	53.2	6.4	2.2	5.8	32.9	33.2	19.2	8.9

V. 結論

- (1) しおみクラブ加入者（A群）は、定期的なスポーツ活動を実施しており、スポーツ活動への満足度も高い。クラブ加入希望者（B群）は「散歩・ウォーキング」「軽い体操」などの手軽で個人で行う種目を実施しており、実施頻度も低い。また、今後のスポーツ活動はこれらの種目に加えて、「バドミントン」「テニス」などの種目に対してニーズを持っている。
- (2) クラブに対する認知度は、クラブ加入者、加入希望者、加入非希望者（C群）の順に認知度が高い。クラブへの勧誘については、未加入者（B群、C群）に対し

てあまり勧誘していないため、今後はこれらの人々に対して勧誘が必要であろう。

(3) クラブ加入者の加入後の変化として、「新しい仲間が出来た」という人が多く、クラブが社交の場になっており、特に男性にとって顕著である。

(4) クラブ未加入者の加入条件として、多様なプログラムがあり、健康をチェックしてもらえようシステム構築、スポーツ実施後のコミュニケーションを行える場づくりを指摘する人が多い。

(5) 参加したいスポーツ教室は、商業スポーツクラブで行えるようなフィットネス系のプログラム、個人で手

軽に行われる健康づくり系の運動、個人もしくは少人数で行われる球技にニーズが高い。

(6) 会費については、現在の会費を8割以上の人安いと感じており、特に加入希望者が一番それを感じており、もっと金を払っていいと思わせるプログラムの提供がクラブの発展につながるものと思われる。

(7) クラブ加入者、加入希望者、加入非希望者の順にコミュニティ意識が高く、しおみクラブ加入者は地域におけるコミュニティ形成に寄与していると思われる。

本研究にご協力いただいた、しおみクラブのクラブマネジャーの能田雅雄氏や潮見公民館の方々に深く感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 三浦展 (2005) 「下層社会ー新たなる階層集団の出現ー」 光文社
- 2) 朝日新聞 (2006.5.14)
- 3) 堺賢治 (2006) 「総合型地域スポーツクラブの必要性」 愛媛大学教育学部保健体育紀要 第5号 41-45
- 4) 堺賢治 (2004) 「総合型クラブを阻むものー小規模町村の問題点ー」 みんなのスポーツ 11月号 10-12
- 5) 堺賢治 (2005) 「都市型スポーツライフと総合型クラブーその必要性ー」 みんなのスポーツ 2月号 10-12
- 6) 愛媛県 (2001) 「県民のスポーツに関する世論調査」
- 7) 鈴木広編 (1978) 「コミュニティ・モラルと社会移動の研究」 アカデミア出版